

# 土佐と反骨

高知県教育史上の人々

高知北高等学校長  
広瀬典民

- 1．はじめに
- 2．土佐人の特性
  - イ 薫的和尚
  - ロ お馬と玄光尼
- 3．高知県学校教育の推移
- 4．県教育史を彩る人々
  - イ 吉田数馬
  - ロ 横山又吉
  - ハ 吉田豊道
  - ニ 前田重作
  - ホ 小砂丘忠義
  - ヘ 溝淵進馬
- 5．土佐人的県外人
  - イ 鈴木健二
  - ロ 坂西志保
- 6．城北問題
  - イ その背景 - 高知県の教育土壌 -
  - ロ 城北中学校の開校
  - ハ 城北問題の発生
  - ニ 城北問題の新展開
  - ホ 城北問題の終焉

## 1. はじめに

さき程ご紹介頂きましたように、私、大体は『政治経済研究会』のほうで、事務局長・副会長・会長と歴任して頂きましたが、倫理部会でも幹事といいますが、理事といいますが、そんな役を一時期やらせて頂きました。久し振りにこの会へ出席できまして、感無量のものがございます。

最初にお断わりしておきたいと思います。12、3年前に咽喉の病気で手術を致しまして、いつ再発するかわからないと言われてましたが、何とか無事今日までやってきました。ところが、最近カラオケというものが登場し、それをやり過ぎた関係でしょうか具合が悪くなり、耳鼻科で診てもらいましたところ、カラオケは駄目、と言うことでした。それでも懲りずに、一昨日松山へ行って、またやったものですから益々調子が悪くなりました。お聞き苦しいと思いますけれども、お許し下さいますようお願いいたします。

一応、資料と致しまして、戦前のものですが、学校盛衰の経緯と城北問題について、今日お話し申し上げたいことに関する年表のようなものを配らして頂きました。参考にして頂きたいと思います。

『道標』を見てみますと、昨年度は、岡崎豊先生が福沢諭吉について倫理研にふさわしい話をされています。また、今日の午前中はヤスパースに関する高度な研究発表があったと聞かされています。それに引きかえ、私の場合は、話の内容もかなりレベルダウンしますし、倫理研としては恰好もつきかねますが、県の教育史上の人物を思いつくままに取り上げることによって『土佐人と教育』について考えてみたいと思います。

## 2. 土佐人の特性

7、8年も前になりますが、日常生活における土佐人の特徴について、高知新聞社の記者の方々が調査したところによりますと、人口比で見れば四国や全国の中で悪いことは概ね高知県がトップクラスにランク付けされています。

例えば、パチンコ店の数は日本一、喫茶店の数は東京の3.5倍(何れも人口比)、もっとも7、8年前の話ですから今どうなっているか分かりませんが、大体は、そんなではないだろうかと思われまます。それから、アルコールの消費量が四国一、また金貸業者の数が徳島県の3倍で、これも恐らく日本一ではないだろうかと言っています。その借りた金の使い方というのが、飲み代・ギャンブル代・女性問題解決代の三つ、昔からよく言われまます、飲む・打つ・買うの全部ということになるわけです。いきおい離婚率も日本で1、2を争うことになり、悪いことなら何処にも負けないという結果になっています。

これを生活に照らして見てみますと、四国の他の3県とりわけ高知県と対照的なのが香川県、ここは山が低く、海は瀬戸内だから穏やか、それに四国では台風も一番少ないというわけで、自然環境が非常に平穏です。愛媛県をみましても、元来女の国で、似たようなものです。これに対し、土佐は自然が荒々しい。海は荒れるし、台風は毎年数回来襲するといった調子で、住む人間もよく言えば線が太く豪放磊落、高知の人が政治家やかつては軍人に憧れたのも分る気がします。

旧制中学校でも、城東(現追手前高)が役人養成、海南(現小津高)が軍人養成と明確な性格をもっていました。また、誠実で進取の気性に富んでいる反面、非常に頑固でいわゆる反骨なのが土佐人の特徴だとも言われまます。反骨というのを広辞苑で見ると、『容

易に人に従わない気骨』或は『権力に抵抗する気骨』と出ています。権力に抵抗する気骨というのは野党精神だと思うのですが、これを徳島県あたりと比べてみますと、確かに阿波では官尊民卑の風潮があります。それに対し土佐では、例えば私立学校が栄えるように、やはり野党精神が盛んなのではないかと思います。野球でもアンチ巨人派が多いというのも同じ意味で、そういう反骨を異骨相と呼んでいるわけです。物ごとを決めたらそれにこだわる。良く言えば個性的、悪く言えば野蛮ということでしょう。その点、薩摩と土佐がよく比較されますけれども、薩摩の場合、お互いが引張り合いをしていくのに対し、土佐では個人プレイが非常に多い。或は人を育てない、むしろ足を引っ張り合う傾向があるのではないかと、友達の間でも、『あいつが偉くなって』と反発する向きもあると言われていました。これが、高知新聞社の始めに申しました調査の結論であるわけです。

#### イ 薫的和尚

土佐で異骨相の代表とされている人に薫的さんが居ます。3 年程前、作家の安岡章太郎さんをお招きして県の図書館大会で講演をして頂きました。その安岡さんによれば、会津では旧殿様を呼ぶのに松平様という。それが土佐では一豊とか容堂とかと呼び捨てにし、反抗者の薫的和尚を薫的さんと呼ぶ、と興味深く話していました。若い方の中には薫的さんがどんな人なのか知らない者も居るだろうと思いますので、簡単に説明しておきます。

長宗我部国親の菩提寺・瑞応寺というのが洞ヶ島にあるのですが、薫的和尚はその住職をしていました。一方、山内氏が入国後、掛川より山内家菩提寺の真如寺を移してきたことから一種の権力争いが起こり、瑞応寺の薫的と真如寺の当時の住職・了谷との対立が表面化するわけです。それも説があって明確ではないのですが、山内家の二代藩主忠義公死後の戒名を竹巖院雲公龍山大居士としたのに対し、薫的は巖に竹は粗雑だとして松巖院を唱えて対立したとも言われるし、忠義公一周忌の際の席順をめぐる対立とも言われています。要するに薫的は瑞応寺が真如寺の下に位置づけられることに反発し、結局は、本山永平寺へ訴えようとしたのが露見して投獄され、それも 7 年とか 5 年とか、そんなに長くなかったとかの説もあるのですが、とにかく牢へ入れられ、最後は 21 日間ですか絶食して坐ったままの大往生を遂げたと言われています。その後、瑞応寺の隣へ洞ヶ島神社として祭られているわけです。高知県では、大体、山内家が入国する以前から住んでいる人を土佐人という風に考えているのですが、その面から言っても、薫的和尚は代表的な異骨相の土佐人と言えるだろうと思います。

#### ロ お馬と玄光尼

女の人の場合も高知新聞社の『土佐人』に載っていますが、いわゆる八チキン、或は八チキンとは言えないかも知れませんが、代表的な土佐女にお馬さんが居ます。これはもうよく知られた通りで、竹林寺の脇寺・妙高寺の僧純信が、いかげ屋の娘お馬にカンザシを買ったのが大評判になり、その噂に驚いて琴平の方へ手に手をとって逃げていくのですが、捕えられて追放されます。しかし、晩年の二人についてよく分らない面があるので、2 年程前、鳥取県で小説を書いている富本さんという人が、当時、図書館にいた私を尋ねてきて 2 入のことを調べて帰りました。その後、暫くして『ローカル鳥取』とかいう新聞社から私のところへ電話がかかり、純信についていろいろと聞かれました。内容は『珍

らしい合祀墓のロマンを追う』という記事についてでした。要するに、鳥取県の鹿野町にある長安寺という禅寺の境内に 2メートル大もの墓碑があって、その表へ坊さん、裏へ尼さんの名前が書かれてある。二人とも土佐の人だとのことで、富本さんは、これが純信・お馬だという設定で小説に書いたわけです。後に写真で確認したのですが、表側に『当寺前住竺原仏鑑大和尚』、裏側には『義徹玄光尼上座』とありました。それに『没年が僧明治 2 年、尼明治 18 年、土佐の人』となっています。どうも、先住した僧が、後から追ってきた尼さんを寺の近くの薬師堂へ住ませたらしいとのことでした。その新聞には、いろいろの話が載っており、最後に次のような私の談話があかます。

『富本さんと言う人がきて熱心に調べた。高知でも純信・お馬を本格的に調べている人はいない。……純信の最後は高知県内愛媛県など諸説はあるが鳥取説は初耳だ。こちらにも純信の達筆の書が残っているから筆跡鑑定すれば分かる。高知にとって観光的にも大事な問題だから何れ調べてみたいが、私は恐らく間違いだらうと思う』。まだ調べてもいないが、純信・お馬の話としては信じ難い。ただ、事実が純信・お馬とよく似ているもので、何れも情熱的な土佐の女性の特徴がよく表われているのではないかと、思うわけです。

### 3. 高知県学校教育の推移

教育史の中で土佐人の特性を見ても、いろいろと出てきます。『高知県中・高等学校設置の経緯』(資料 1)を、ごく大ざっぱな年表形式でつくりましたので、先ず、それを見て頂きたい。

(資料 1)

#### 高知県中等高等教育諸学校設立の経緯(旧制度)

- 明 6. 9 海南私塾(明 9 分校、明 15 海南学校)
- 7. 2 陶冶学舎(明 9 師範学校)
  - 〃 変則中学校付設(明 11 高知中、明 32 一中、大 11 城東中)
- 11. 4 女子師範学校
- 20. 10 高知中学校女子部(明 26 高知県高女、大 15 第一高女、昭 21 高知高女)
- 23. 9 県農学校
- 28. 4 江陽学舎(大 8 城東商業)
  - 〃 高知市実業補習学校(明 34 市商)
- 32. 9 県立二中(明 45 廃校)
- 32. 12 私立高知実業女学校(大 10 私立高知高女、大 13 高坂高女)
- 33. 4 一中安芸分校(明 36 三中、明 45 二中、大 11 安芸中)
  - 〃 二中中村分校(明 36 四中、明 45 三中、大 11 中村中)
- 35. 4 私立土佐女学校(明 37 土佐高女)
- 40. 高知女学会(昭 11 清和女学校)
- 41. 4 幡多郡実業女学校(明 45 実科高女、大 11 中村高女)
- 45. 5 私立高知工業学校(大 12 県立)
- 大 9. 4 安芸郡立高女(大 11 県立安芸高女)
  - 〃 私立土佐中学校

- 10. 4 弘岡農学校(昭 16 県立)
- 11. 4 県立城北中学校(昭 6 廃止)
  - " 佐川高女
- 12. 4 旧制高知高校
- 15. 4 第二高女(昭 21 高知高女)、県立夜間中学校〔昭 20 建依中〕
- 昭 10. 4 農業補習学校教員養成所(昭 19 青年師範)
  - 16. 4 須崎工業、山田高女、幡多農林
  - 17. 4 窪川農、室戸岬水産、梶原農林
  - 19. 4 県立宿毛中学校
    - 10 私立藤蔭高女
  - 20. 4 県立女子医専(昭 22 県立女専)
  - 21. 4 室戸、須崎、高岡、城山に各県立中・高女

主なものを簡単に説明しますと、明治 6 年の海南私塾、小津高の前身ですが、先ず東京へ設置になり、その後高知へ分校が出来たあと本校のほうで廃止になかます。学制頒布が明治 5 年であることを思えば、誠に古い歴史をもっていると言えましょう。明治 7 年には陶冶学舎、のちの師範学校で、その附属として設けられた変則中学校が現追手前高校の前身です。当時は、小学校の課程を終えて入学する正則中学校と小学校の課程を終えてなくてもよい変則中学校に区分されていましたが、学制が頒布されたといっても、なかなかその通りに参りませんので、多くは変則中学校として出発したようです。次に明治 28 年の江陽学舎、これは現在の高知学園、同年の高知実業補習学校がのちの市商です。また明治 32 年に県立二中が現小津高の位置へ出来ますが、45 年には早くも廃校になります。林讓治氏の学んだのがこの学校です。ずっと下って大正 11 年設立の城北中学校、これについては後で話をしますが、昭和 6 年になって、廃止と言いますか合併と言いますか、本県教育史上未曾有の大紛糾を招くようになっていきます。その後、現在の高等学校の前身となる学校が第二次大戦の直前ごろ出揃ってくるというのが大体の経緯です。

義務教育については、小学校義務制が実施されるのが明治 33 年ですので思いのほか遅い。しかも 6 年制の義務教育になるのは 40 年ですので、この時点で漸くいまの小学校の形が出来上がったことになります。

一応、これらのことを高知県の学校教育史として知ってもらえたら、と思います。あと、教育史関係者で特定の一人について十分説明する知識がありませんので、何人かの人物を取り上げて概略を説明させていただきます。

#### 4. 県教育史を彩る人々

明治時代、学校長として異色の人物に、海南学校の校長を永年勤めた吉田数馬、それにもう一人、商業学校長だった横山又吉が居ます。お二人については、三葉会の会報(40号)へ『二人の異骨相校長』という題で書いてありますので、機会があればご覧頂きたいと思えます。そのほか、数多い異色の人物の中でも特に並外れた反骨の人として、ここでは吉田豊道、前田重作、小砂丘忠義、溝淵進馬といった人々を取り上げることに致します。

イ 吉田数馬

明治 15 年から 40 年まで、年齢で言えば 35 歳から 60 歳までの 25 年間にわたり海南学校校長だった吉田は、徹底した軍事教育を進める中で、全国的にも珍しい試みを次々とやっています。例えば、明治 16 年、全国で最も早く制服制帽を決めている。それも制服は紺木綿の着物に短袴、帽子は海軍将校型といったわけで、勉強するのにあまり恰好の良いのは好ましくない、との考えだったらしい。翌 17 年に兵式体操、いわゆる教練のことですが、背のうを背負い銃を握って訓練するわけです。この兵式体操が 21 年には全国的なものになっていきます。更に、18 年からは軍隊式野営行軍すなわち野宿遠足が始まります。無論、先生もみな野宿です。富国強兵の時代でもあり、吉田はこのような軍隊式の教育態勢を数年の間に築きあげ、明治 20 年代から 30 年代にかけてそれを実践していくわけです。

小津高の 100 年史をつくったとき、何人もの海南学校卒業生に会って話を聞きました。現在はもう 100 歳を超えている関田源太郎さん。この人は明治 35 年に海南学校を卒業していますから、吉田校長が豊鑠(かくしゃく)としていた頃の生徒です。また、八幡製鉄所の研究所長を退職後、長年県の工業試験場長をやられていた田所芳秋さん(明治 40 年卒)、それから、元海軍中将だった山崎重暉さん(明治 43 年卒)や元陸軍中将で戦後桂松閣の社長をされていた山本清衛さん(明治 45 年卒)ら、軍人だった方もそうでなかった方も、みな一様に吉田校長の偉大さを讃え尊敬している様子がよく分りました。

#### □ 横山又吉

こちらは高知商業の校長と、明治 31 年から大正 6 年まで、吉田より少し遅れて 43 歳から 62 歳の約 20 年間勤めています。この人については、『鵬程万里』という私もお手伝いして作成した 80 年史があって、その中に卒業生の『回想』が載っていますけれども、内容は横山校長のことばかりです。根っからの自由人だった彼も、校長としては吉田に師事したと言うか、非常な影響を受けていたことがよく分ります。無論、中学校と商業学校ですから方法は違っているものの、独創的な学校経営という点で共通のものを持っています。例えば、吉田校長は規則嫌いで、臨機応変に処理したというのですが、横山校長もまた同じく、その都度、状況に応じて指導したという具合です。一方、吉田校長の教えを受けながらも、制服は、海南学校とは反対に洋服を着用させています。これは、和服に袴では商業人として似つかない。また商業人は国際的な感覚をもっていなければならぬ。という考え方だったようです。その後、他の中学校も洋服を採用するのですが、それらは大正中期になってのことで、明治時代からの洋服は非常に珍しいわけです。また、当時は中学校の生徒によく街中を行進させるようなこともしたのですが、その順番が中学校・実業学校となっていた関係で、市商はいつも最後列になる。

それでは生徒の自尊心を傷つける、負け犬になってしまうということで、考えた末に楽隊をつくり先頭を歩けるようにしたといえます。

これらは 2、3 の事例に過ぎませんが、吉田数馬と横山又吉こそ、その発想・実行力等に為いて、本県教育史上、学校を隆盛に導いた校長さんの双壁と言って過言でないと思われまます。

#### ハ 吉田豊道(楨村浩)

二人の校長に対して、今度は異色の生徒についてですけれども、土佐文雄が『人間の骨』の題名で小説化したいわゆるプロレタリア詩人で『間島パルチザンの歌』とか『生ける銃架』を残した人、吉田豊道、筆名楨村浩に触れておきたいと思います。

この人は、子どものとき神童と呼ばれながら、数学はどうも不得手だったらしい。私などが子どものときは、算数・数学が出来ないと頭が悪いように言われたのですが、それは余り関係ないみたいです。かれは土佐中へ入学し、そこで体育の時間に先生と衝突してクビになります。しかし、頭が良いと言うことで歴史家の寺石正路さんが自分の勤務していた海南学校へ編入学させるわけです。ところが、ここでも教練の教官と喧嘩して退学になり、結局、岡山の関西中学校へ転校して、そこを卒業しています。その後、労働運動・反戦運動をつづけ、二度ほど検挙され、刑務所で拷問の末、脳を患い最後は土佐脳病院で死んでいます。27歳でした。かれの生き方・遺業を見ただけでも、凄い能力の持主だと思われ、非常な異骨相だとも思えるのです。

＝前田重作

高知県人名辞典にも載っていないにもかかわらず、変り種の大人物だと思しますので、少し詳しく説明します。この人、数学者で、かつて室戸高校長をしていた宮本正心先生とか、同級生だった元山田高校長の森沢栄晴先生が師範学校略史の中へ思い出を書いてくれています。私も師範学校に居た者ですからよく分るのですが、この学校では、特に先生の言うことを聞いて几帳面にすることが大事でした。その意味では、私など誠に劣等生だったと言えます。しかし、彼の場合は、徹底していて、英語・数学以外は何も勉強しない。試験のときも白紙でさっさと出していく。卒業できたのが不思議なくらいです。友達と一緒に散歩していても突然うずくまり道の路面へ幾何か何かの図形を画き始めるという、何だかソクラテスのような感じがします。昔、修身という教科があって、校長が教えることに決っていました。その卒業試験で、『卒業後の覚悟について』の問題が出され、2時間もあるのに5分もすると一人提出した。見ると『一学究徒として終わらんのみ前田重作』とだけ書かれてあった、と言います。校長は、落第させるのも可愛そうだということで『可』の評価を与えて卒業させたそうです。

卒業した前田は、文検に合格し、更に当時の東北帝大いまの東北大学へ進み、大学卒業後は残留して助教授になりますが、若くして病気で亡くなります。

同じ高知師範の先輩であり東北帝大の先輩でもあった細川藤右衛門という広島文理大の数学教授をしていた方が居たのですが、この人が彼を評して『非常に文章が上手で礼儀正しい』と言っています。師範学校時代、まことに礼儀に欠けていた男が、教師になって研生活の中で文章がうまく、礼儀正しくなっていく。恐らく、一芸に秀でれば、人格までも向上するのではないだろうか、そんな感じさえするわけです。

師範学校略史を編さんしたとき、私の最も印象に残った人がこの前田重作でした。今度、県の人名辞典をつくる時には、是非ともこの人を入れて欲しいと思っています。

ホ 小砂丘忠義

人名辞典に載っている師範学校の卒業生で最も変わった入が小砂丘(笹岡)忠義ではないかと思えます。言わずと知れた大正デモクラシー期における生活綴方運動の先駆的实践者で

す。在学中は、いわゆる師範教育に反抗して、卒業写真を見たことがあります、彼だけ後向いています。シャッターを切るとき、サッと後向きになったと思います。そんな形ではしか体制には抵抗できなかったらと思うのですが、その後小学校の先生になってからも、同じ理由で毎年転勤させられています。行川に居たり田井へ行ったり、その間『極北』だとか『地軸』などといった教育評論誌を刊行し続け、遂には上京してこの運動に打ち込むわけです。友人であり先輩でもある田中貢太郎から、『それでは飯が食えん、小説家になれ』と勧められるのですが、やはり反骨なのでしょう。結局は、綴方教育に生涯を捧げることになります。

#### へ 溝淵進馬

他人から誘われてそれを断わることが土佐人にはよくあります。高知一中(現追手前高)の卒業生でライオン宰相と呼ばれた浜口雄幸と同級だった人に溝淵進馬が居ます。一中・三高・東大と進んだあと教師になり、長く旧制高校の校長をした人ですが、旧友の浜口首相から、文部大臣にと乞われたことがあります。しかし、彼は『最後まで教育者でありたい』として、その要請を断わっています。

このような反骨の人材は、県の教育史を一望しただけでも沢山出て参ります。

#### 5. 土佐人的県外人

##### イ 鈴木健二

反骨の人というのは、無論、高知県に限ったものではなく県外にだって見られます。現存者を例に出して申訳けないのですが、この人など、かなり異骨相なところがあるようです。渡部昇一上智大学教授との対談や彼自身の著書を読んでいますと小学校のときは優等生だったのに中学校では扱い難い厭味な生徒になっていたと述懐しています。例えば、数学の時間に指名されたときは、少しふざけて皆を驚ろかせてやろうと、左手でコンパス、右手でチョークを同時に使って書いたところ、怒った先生に『数学は遊びじゃない』と言って×を付けられた、という話が載っています。式も答えも間違っていないのに×をされ、それ以来数学が嫌いになったとも書いています。また漢文の時間に、教育勅語の『朕惟フニ……一旦緩急アレバ……』というのは間違っている。全体が文語体だから、ここは『アラバ』ではないかと尋ねたところ、天皇陛下の言われたことだから間違いないとの答えであった。そこで、他の『あらば』とすべき箇所をわざわざ『あれば』と書いてみたところ×をつけられた。抗議をしたが反対に叱られた。という風に述べています。この人は、東京育ちで東北の大学へ行っていますけれども、土佐の異骨相と共通のものを持っているように思えます。

##### ロ 坂西志保

女性でもこの人、なかなかの異骨相だと思います。『テフテフトマレ』というのが国語の本にあったのですが、これをどうしても『チョウチョウ』と読まなかった。先生に何度注意されても、そう書いてあるからと言って『テフテフ』と読み、1時間立たされたこともあったとのことでした。さき程の鈴木健二さんが、NHKの何かの番組で、味つけを良くするには『サシスセソ』の順に入れるとよい、というのをやっていたことを思い出します。サは砂糖、シは塩、スは酢、ソは味噌なのですが、セは何かと言えば『セウユウ』で、

奨油のことなのです。『テフテフ』とか『セウユウ』と書くのが旧仮名遣いだったのはご承知のことと思います。また、女学校へ入っても、先生が『急がば廻われ』と教えても、『それは反対、廻らば急げだ』と言って叱られたり、或は自分の好きな本ばかり読んで一切勉強せず、二回落第して結局退学し、のちに検定で卒業資格をとっています。その後、東京女子大へ入学するのですが、そこも花嫁学校は厭という理由で退学してアメリカへ渡ります。戦後日本へ帰えり評論家として活躍したのは衆知の通りですが、もう大分前亡くなりました。土佐で言うハチキンなのでしょう。

## 6. 城北問題

イその背景 高知県の教育土壌

異骨相的な人は県外にもよく居るのですが、土佐の特徴は、そういう傾向の人が普通と  
いうか、果てしなく多いことにあります。それに、集団でも徹底してやり抜くという面が  
強い。代表的な例が、戦前では城北問題、戦後では勤評紛争ではないかと思ひます。勤評  
紛争については、すでに30年を経過しているものの判断の難しい面もあるので、今日の  
ところは城北問題にしぼって話を進めることに致します。

高知県では、他県に比べて学校内の紛争が多く、先生を養成していた師範学校でさえ、4  
年に1回ぐらいの割合でストライキが起こっています。たいてい教員に対する追放を要  
求してのストライキですが、東北地方の師範学校などでは全く考えられない現象です。高  
知県の中等学校では、戦後はもとより明治から大正へかけての時期にもよく起こりました。  
例えば、大正時代には農業学校(現高知農高)で20日間ほども続いた大ストライキがあか  
ます。しかし、何と云っても、城北海南合併問題をめぐっての紛争は、全国的にも稀なも  
ので、例外中の例外と言えらるかも知れません。紛争開始から終結一まで約1年半、しか  
もこの間に県知事が数回にわたって更迭をみるという、ある意味では極めて大きな政治問  
題でもあったわけです。この大紛争について、お渡しした資料『城北問題のあゆみ』に従  
いながら若干考えていきたいと思ひます。

(資料2)

### 城北問題のあゆみ

- 昭 6. 5. 県議会、城北・海南合併決議
- 5. 23 城北生徒大会で総退学決議(638人中598人)
- 6. 19 警官隊導入
- 22 生徒550人を無期停学
- 8. 5 登校拒否生徒全員を退学処分
- 13 教員3人辞表提出
- 10. 5 県議選挙
- 11. 13 県議会で合併確認(16対15)
- 12. 総選挙
- 昭 1. 1. 退学処分撤回
- 5. 7 新校舎落成
- 7. 7 城北4・5年生150人盟休・ろう城

- 9 3年生 90人合流
- 15 2年生 70人合流
- 16 盟休解除
- 8.10 知事・校名・校章案提示  
海南同窓会・生徒ら、知事案拒否
- 9.27 山内家・海南同窓会、知事案受諾
- 30 海南4・5年生 100人、知事案を拒否してろう城
- 10.4 海南生徒解散
- 7 校名改称式
- 11.25 校舎新築落成式

#### ロ 城北中学校の開校

ご承知のように、第一次大戦が勃発したのが1911年(大正3年)で1917年(大正9年)まで続きます。戦後の好景気を反映して進学希望者も急増し、それに促されて設立されたのが城北中学校です。場所は現小津高校の敷地でした。この学校が出来たことで、一中は城東中と校名が変わります。ただ入学試験は両校同一問題で行なわれ、合格発表は全く平等に取扱われることになっていました。例えば、一番城東・二番、三番城北・四番、五番城東・六番、七番城北……・翌年度はそれを反対にするといった具合です。もっとも、誰だって、新設の城北より伝統があり設備の整っている城東へ入りたい。いきおい城北の教員は城東に負けてなるものかと頑張った。その結果、進学面で城北が城東を上回る成績を残すようになった。

やがて1926年(昭和4年)、単独募集に切り替えます。その頃になると、世の中は大変な不景気に陥り、大学を出ても就職に困る時代が到来しました。今度は学校を整理しなければならぬ。そうすると、城東は伝統校で総理大臣も出ている。安芸や中村は地理的にみて廃校するのは難しい海南は山内家の学校となれば、廃校の対象は城北しかない。この状況が、やがて城北問題という未曾有の教育混乱を惹起することになるわけです。

#### ハ 城北問題の発生

明治時代に比べ、海南学校は、吉田校長の引退もあって、大正期には急速に落ち込んでいきます。一方、発足したばかりだが、城北中は日の出の勢い。県当局が両者を合併させて海南学校のかつての栄光を取り戻そうと考えるのは、けだし当然の帰結にほかなりません。そんなこんなで、資料の最初にありますように、昭和6年5月、城北・海南の合併問題に県議会が断を下します。その頃、国政を二分していたのが政友会と民政党で、無論、県議会も同様でした。元来は両方とも大隈重信・板垣退助の憲政党から出ているのですが、中等学校普及派の政友会に対し縮小派である民政党の立場で合併が決まったわけです。決定は校名校章とも海南学校のもの、従って、事実上城北中を海南へ吸収するというものでありました。これに怒った城北の生徒・父母・同窓会が一緒になって反対運動を起こし、街頭演説などで精一杯、県民にアピールしていきます。そして、5月23日、生徒大会で全校生徒638人中598人が参加して退学を決議するに至ります。そんな動きに対し、6月には、生徒たちの闘争本部となっていた図書室(昭和館)が導入された警官隊によって占

抛され、22日、550人が無期停学、8月5日、登校を拒否した生徒全員に退学処分が言い渡されます。

大多数の生徒に対する退学処分という異常な展開の中で、今度は教師3人が辞表を提出するなど教員をも抱き込む形で闘争が拡大していきます。とりわけ、10月5日の県議選挙に際しては、城北問題をめぐる烈しい攻防の末、結果的には政友会・民政党各15人が当選します。

勢力は完全に二分されたのですが、当時は二票行使できることになっていた議長を選出するのに一番年長者を当てるという慣例があり、たまたま、その人が民政党所属という運命のいたずらで、県議会において合併が確認されたわけです。

他方、国の総選挙も行なわれ、こちらの方は民政党の若槻内閣から政友会の犬養内閣に代わります。必然的に県知事も民政党系から政友会系へ移り、新知事によって事態收拾が図られていくことになります。

#### ニ 城北問題の新展開

明けて昭和7年になりますと、知事の努力が実って退学処分は撤回され、生徒は卒業或は進級していきます。一方、3月に知事が再び代り校長も交替したあと、5月には新しい校舎ができます。現在の小津高の建物です。城北の敷地の中へ新校舎をつくったわけで、当然、九反田にあった海南学校が此处へ移ってくる。ところが、新校舎の使用は、東半分が城北、西半分は海南と分かれ、事態はなかなか收拾の気配を見せません。その上、城北側は、あくまでも新校名・新校章を主張して知事に迫り、解決の誠意が無いとみるや、4・5年生150人が3階東端の教室で籠城に入ります。次第に人数もふえて遂には300人以上の生徒が参加したわけで、それでは食事にも困る。これは父兄がロープを使って下から上げていたが、疲労・不安は重なるばかり。事態を憂えた田村実代議士が調停役を買って出て、一週間ぶりに漸く籠城が解除されます。そして、8月10日、知事が新しい校名・校章の案を示す運びになります。これがまた、校名は『海南中』、校章は海南の『三葉柏』へ城北の使っていた『中学』の文字を入れるだけという海南寄りのもので、だまされたということになりますが、もうこれ以上は闘えないと判断して城北側は矛を収めるに至ったわけです。

#### ホ 城北問題の終焉

城北側が闘いを終えたあと、今度は海南側が反撃に出ます。海南の伝統を守って、校名・校章を元のままにせよという誠に単純なものです。一方、学校と社会を混乱させた責任を問われ、闘争を指導した城北生徒3人が無期停学、他の者は2週間から1か月の停学となりますが、丁度夏休みのため実害は殆んど無かったわけです。海南側では、城北のそんな処理の仕方にも憤慨して、山内家と同窓会が知事案を受諾したあとも、4・5年生約100人が山内邸(現三翠園)への籠城になったという次第です。しかし、10月4日、入交好保氏が生徒たちを説得して解散させ、7日に校名改称式、11月25日には校舎新築落成式も行なわれ、難産の末、新生海南中学校の発足を見るに至りました。

この事件、学校紛争としてはわが国教育史上稀に見る大闘争だったと言わねばなりませんが、それにしても大きな犠牲を払って得たものは一体何だったのでしょうか。単純で損

得勘定を嫌う土佐の県民性の表れなのかも知れないと思わずにはられません。

## 7. おわりに

心理学の宮城音弥先生は、人間の生き方を極めて対照的に捕えています。第一に理想を追究する追究人と目標を持たない無執着人、第二に快楽を求める享楽人と欲望を抑える義務人、第三に社会生活に変化を求める冒険人と安全を求める逃避人のタイプに分けていますが、土佐人の場合は、間違いなく、追究人・享楽人・冒険人に当たると思われます。

こういうことから言えば、土佐人は戦時型或は非常時型と言えるのではないのでしょうか。少なくとも平時型ではないようです。一昨年でしたか、定時制通信制関係の大会が高知で開かれたとき、全国定通振興会長をしている長谷川峻さんに、『昔は土佐から大人物が輩出しているのに、最近あまりパツとしないのは何故だろう?』というようなことを聞かれました。答えに困って、『高知というのは、どうも非常時にしか大人物は出ないようです』と言ったことでした。幕末、龍馬のような人、日清日露戦争のときの軍人とりわけ海南学校の将校輩出率は全国随一だったようです。太平洋戦争の頃は永野修身海軍元帥や山下奉文大将ら、戦後の混乱期には吉田茂首相とか、これらの人々が、ある意味では日本の指導的役割を果たしてきた、と言えるだろうと思います。これを見ても、土佐人の特質はやはり積極型・非常時型、一面から言えば、創造性だとか社会性だとかいった秀れたものが一杯あるような気がします。

『土佐の教育はどうあるべきか』という場合にも、結論的に言えば、気質や行動から『土佐人』をよく知った上で教育を考えてゆくべきではないか。その為にも・明治以降の長い学校教育の中で教師がどう取り組み生徒がどう育ったか、先生方とりわけ若い先生方に高知県の教育史をよく学習して頂きたいと思います。

時間がきたようですので、これで私の話を終わります。長時間ご静聴ありがとうございました。

(編者注)この文章はご講演の内容を広瀬校長先生によりテープ起しをしていただいたものです。労をとって下さいました先生に厚く御礼申し上げます。